

アクアマリンふくしま

企画展「飼育員すばる君のひみつ道具」

開催期間：2023年7月15日（土）～2024年2月29日（木）

自主開催：2024年3月1日（金）～2024年9月1日（日）



【企画展の内容・目的】

- 飼育道具を媒介として、普段は明かさない飼育員の仕事や工夫を紹介し、水族館が日ごろ得ている海の学びを観覧者と共有することは海について学び、海を守ることの大切さを実感できる事業とすることを目的とした。
- 水族館の車の乗車体験の他、調餌、給餌、剖検、などの多様な体験プログラムを実施することにより、海洋生物について興味をもつきっかけづくりから、生物を育む海がどのようなものなのか考える機会を提供した。
- 海への興味を引き出すため、飼育員の目線を通し、外見から判断できる特徴を超えた生物の観察の仕方やそれらが生息する環境との関りを紹介した。また、人間による環境破壊と生物へ与える影響を知り、持続可能な未来を創るため責任ある行動を起こさせることを目標とした。

1. 企画展示の内容

- 開催期間：2023年7月15日（土）～2024年2月29日（木）
- 開催場所：アクアマリンふくしま アクアマリンえっぐおよびホワイエ
- 入場者数：400,976人



アクアマリンふくしま 外観



企画展会場 入口



本会場は、施設の一番奥にある子ども体験館「アクアマリンえっぐ」とした。増設されたエリアであり、連絡通路を渡らなければならない。そのため、本会場の手前に導入となる展示を設けた。飼育員の仕事部屋をイメージした「すばる君のひみつ部屋」は、展示をつくっている飼育員の実態を知って、将来飼育員を目指す子どもたちはもちろん、より多くの方に展示に興味をもっていただくための場所とした。飼育員になるまでの経歴や飼育員に必要な仕事を紹介するパネル、書籍やはく製などを設置した。また、今回の企画展のキャラクターとなった飼育員や解説員が同所で来館者の質問に答えるなど、来館者とのコミュニケーションの場を設けた。このことにより展示への興味を引き出すだけでなく、来館者がどのようなことに疑問を持っているのか直接知ることが可能となり、来館者だけではなく当館スタッフの学びの場ともなった。

本会場へ続く連絡通路には、事前に来館者から集めた飼育員に関する質問を掲示した。答えは本会場を見ればわかるような構成にすることで、歩きながらでも展示への興味関心や期待感を高められるように工夫した。



本会場では、飼育員が使用している道具を「採集」「輸送」「搬入」「飼育」の4テーマに分けて展示した。道具の解説パネルには、実際にそれらを使用している飼育員のコメントを掲載した。

「採集のひみつ」では、長さ1.5mほどある長いひしゃくを使って水ごとすくうクラゲ採集や、通常の釣りとは違いかえしが無い釣り針を使い、針を外す際も魚体に触れないようにする水族館の釣り採集を体験できるブースを設けた。これらの採集方法は生物の特性を理解しているからこそ選択されたものである。実際に道具を使ってみることで、来館者も生物の生態や多様性を理解することができるように工夫した。また当館では、深海生物の展示にも力を入れており、その採集や飼育方法についての質問が多く寄せられていたことから、深海生物の採集時に使用される加圧治療水槽を展示し大人の関心を集めた。

輸送方法もその生物によって異なる。宅配便を利用することもあるが、その際にも安全に運ぶため、細心の注意を払っている。「輸送のひみつ」ではパッキングの実物を展示することでその工夫が見えるようにした。そして、当館のメイン水槽をはじめ、多くの魚たちを輸送する際に使用している活魚トラックのひみつを紹介した。



会場内に設けた活魚トラックのモデルは、実物同様トラックの水槽内部が格子模様になっている。これは水槽の壁を認識させるための工夫だ。ここでは、輸送してきた魚の搬入体験ができる。イワシは穴あきバケツ、マグロは担架、というように魚によって搬入の際使われる道具が違うことを紹介しており、向かい側には本当の重さがわかるハンズオンがあり、生物の特徴を考えて用意された搬入道具を実際に使うことにより、生物を観察する力が養われるようになっている。また、様々な問題解決のプロセスを学ぶことができる。子どもと大人が同じ体験をすることで、家族や友人、周囲の人々と共に海について考える機会を提供する場ともなった。

補足として、搬入の際に行う水合わせの紹介から、水温1℃の違いが海洋生物に与える影響の大きさを伝えた。また、生物相の変化から地球温暖化について実感し、自分たちができる対策を考えるようになるきっかけをつくることを目指した。



「飼育のひみつ」では、飼育員手作りの掃除用具や給餌道具を紹介した。また、潜水作業をイメージしたフォトスポットを設け、生物に負担をかけないための潜水時の注意点などを紹介した。会場内では、展示に関するクイズを実施した。月に1～2回程度内容を更新し、学びを深められるようにした。

また、企画展会場以外の常設展でも飼育道具を紹介した。常設展エリアでは、繁殖への取り組みや動物福祉のための取り組みなどを紹介した。ユーラシアカワウソの展示水槽前では、エンリッチメント（動物福祉）のためのフィーダー案を募集し、実際に製作、導入結果を公式サイト内で公表した。来館者が動物福祉について知り、考え、行動する機会になった。

施設全体を活用し、健全な海を維持し、環境に負荷をかけないために飼育員が収集や飼育作業で実施している工夫を紹介することで、人が海を利用するために心がけなくてはならない「大切に利用する」ことを理解できる展示を心掛けた。「大切に利用する」ためには、生物の生態や特徴、生物が生息する環境、生物同士の繋がり、人との関わりなどをよく理解する必要があることを、体験しながら学べる展示とした。

【来館者の声】

- 海の生物を守るために環境を大切にしなければいけないと思った。
- 海が身近なものだということを実感し、飼育員さんも人間でいろいろな工夫があってこのような素敵な水槽が完成するのだと思いました。
- 自然を大切にして、自分たちにできることを考えていきたいと思いました。
- まず私たちが身近でできるポイ捨てをしないなど、小さなことですが、コツコツと行うことが大切だと子供が考え、家族でごみひろいなどボランティアができればよいねと、はなしていました。

2. 関連事業の内容

■働く車の展示

【開催日時】2023年7月15日(土)～17日(月・祝)

11:00～12:00、14:00～15:30

【開催場所】アクアマリンふくしま おまつり広場

【参加者数】600人

【実施内容・目的】

- 魚を運ぶ活魚トラックや移動水族館専用車など、当館で働く車を展示し、それぞれの役割を紹介した。また、乗車体験も行い、飼育員の仕事や仕事に必要なスキルを紹介した。
- 幼少期の子どもたちが興味を持つ「働く車」の実物を見たり乗車体験をしたりすることにより飼育員への興味を抱かせる。



フォークリフト乗車体験



活魚車・ユニック車など車両の展示



当館では、飼育員自ら全国各地に出かけ、生物を採集、輸送している。その際には活魚トラックが使われる。輸送してきた生物を館内の展示水槽に移す際にはフォークリフトやユニック車が使われる。イベントや学校教育には移動水族館専用車が使われる。水族館の活動の中で利用される様々な車両を展示し、車両の特徴や役割、機能を紹介した。乗車体験をすることにより、子どもたちの興味を引き出し、将来の職業として飼育員を志したり、職業のイメージを具体的にさせたりすることができた。活魚トラックの衝突防止壁やろ過装置などを公開し、その技術を知ることで海洋生物の生態について興味を持つきっかけをつくった。

【来館者の声】

- 働く車が子どもが好きなので乗れたことがよかった。海は全てつながっているんだなあと感じた。
- いろんな生き物がいる。もっと知りたくなった。
- 水族館を通して海を学ぶ大切さを感じた。

■飼育員と夏休み自由研究「世界で一つだけのルアーづくり」

【開催日時】 2023年8月6日（日）

10:00~11:00、14:00~15:00

【開催場所】 アクアマリンふくしま アクアルーム2

【参加者数】 8組16名

【実施内容・目的】

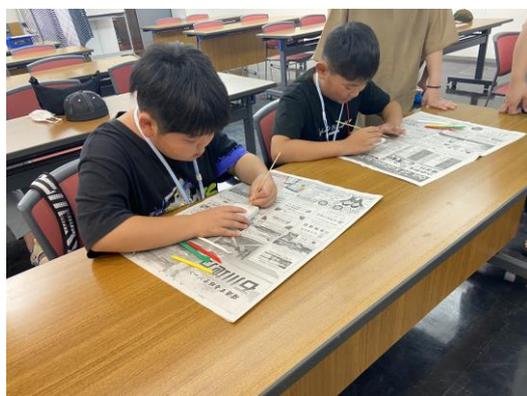
- ルアーづくりを通して、魚の生態を学ぶ。
- 環境にやさしい素材でできたルアーづくりに挑戦し、人間活動による海洋背物への影響を学び、行動変容を促す。



アクアルーム1



ルアークイズ



このプログラムでは、生物を傷つけない採集方法として用いられる釣りについて紹介した。魚による仕掛けの違いを紹介し、どんな魚が釣りたいか想像しながらルアーづくりに挑戦してもらった。このプログラムでは、環境にやさしいグミルアーを作成した。当館周辺は釣り特区になっており、釣りをする方が多い。しかし、ごみが放置されていることや、釣り糸が絡まった生物が見つかることがある。プログラム内では、釣りのマナーもあわせて紹介した。仕掛けを作りながら魚の生態について考え海洋生物への関心を高めた。早速当館内の釣り堀で釣りを体験し、釣果によって工夫の必要性や生態をより詳しく調べる必要性を感じていた。また釣りのマナーについては目の前の海で怒っている問題だからこそ、参加者はその問題を強く意識することができていた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

【来館者の声】

- ルアーがきんぞくだとウミガメがたべてしぬけど、てづくりだととけてしぜん（うみ）をまもれること学んだ。
- 海の生物はよりどりみどりいろんなものを食べている。そのため、ルアーも大きさや形を変化させなければならないことを学んだ。
- 海にあるごみのルアーやゼラチンで作るとけるルアーを学びました。

■飼育員のお仕事紹介

【開催日】 2023年8月22日（火）、9月7日（木）、9月8日（金）、9月13日（水）

【開催場所】 アクアマリンふくしま アクアルーム2/マリンシアター

【参加者数】 308人

【実施内容・目的】

- 中学生～専門学校生を対象に飼育員の仕事について紹介した。
- これから職業を考える学生や将来海に関わる仕事につきたいと考える学生向けに講演を実施することにより、将来の展望を抱かせることや生涯学習の場とすることを目的とし実施した。



中学生向け講演



専門学校生向け講演



中学生、高校生、専門学校生を対象に飼育員の仕事を紹介した。基本的な仕事である掃除、調餌、給餌の他、採集、搬入、展示レイアウト、保全活動、教育活動、イベントなど多様な飼育員の仕事を紹介した。併せて必要な資格を紹介した。飼育員の仕事は楽しそうといわれることがある。水族館で行われる飼育体験はイベントのようなものが多いが、この講演ではキャリア教育として、楽しいだけでなく生物の命を扱う責任のある仕事であることを認識してもらい、職業感の育成を行った。特に飼育員の出身校の学生への講演は、参加者と講演者の年代が近いこともあり、将来像や海に関わる仕事についての展望を具体化することができていた。また、日常で出会う生物への観察力を高めた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

【来館者の声】

○深海の魚も研究して様々なことを学ぼうとするところが素晴らしかった。「海」にはまだまだ発見されていなものがあると感じた。

○自分が今までに見たことがない生き物がたくさんいた。海に少しずつ関心を持つことができました。自分の興味を増していきたいなって思いました。

○海や魚が好きというだけではやっていけないということが分かった。

○水族館で行われている繁殖研究が、自然観光課での生息数減少の抑制に役立っていることを学んだ。

■動画配信

【配信日】2023年8月23日（水）、11月3日、12月19日、2月28日／8月13日、11月8日、12月20日

【参加者数】10,244 回再生／ショート3本 2,537 回再生

【実施内容・目的】

- 飼育員の仕事について担当者にインタビューする。
- 特に一般の方から問い合わせの多い項目について動画で紹介する。
- オンラインで実施することにより、地理的距離、世代に関係なく海の学びを提供することを目的とする。



【すばる君企画】大水槽への搬入のひみつ！マグロやカツオって水槽にどうや



【すばる君企画】アザラシの給餌のひみつ！アザラシのごはんってどうやってあげてるの！？



【すばる君企画】もっと！バックヤードツアー！！
普段は見れない水族館の裏側を紹介！



北海道 流水下潜水採集の様子

来館者からは、飼育員と話したいという要望を受けることがある。イベントとして来館者の前に出たり、館内で作業中に対話したりする機会はあるが、限られたものである。

そこで、来館者からの問い合わせが多く、関心が高いと思われる搬入、給餌、バックヤードで作業、フィールドでの採集についての動画を配信した。

撮影、インタビューは飼育員が務め、飼育員目線で飼育員の仕事を深掘りできる内容に仕上げた。動画は当館の公式 SNS で配信の紹介をしたが、それ以外にも学校の講演会等で動画の紹介をした。水族館の仕事や海について関心を高め、興味や学びを継続させるためである。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



これまでショート動画の配信はほとんどなかったが、今回の企画に合わせて配信を実施した。ショート動画は当館や生物への関心の低い方にも訴求しやすいコンテンツである。長編とショートを組み合わせるにより幅広い層への訴求が可能となった。

これまでは、企画展と連動した動画の配信はなかったが、ハイブリッド型で情報を提供することにより、海の学びを多方面に提供することができることが分かった。遠隔地へも学びを提供できるため、その利点を活用しながら、今後も学びを提供していきたい。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。

■講演会飼育員と夏休み自由研究「わくわくぼうけん深海魚」

【開催日時】2023年8月19日（土）10:00~12:30

【開催場所】アクアマリンふくしま 館内

【参加者数】20人

【実施内容・目的】

- 深海魚について、エサの食べ方を中心に生きる工夫を紹介した。深海魚の剖検（解剖をして胃の内容物を調べる）や深海魚へのエサやり体験などを通して様々な角度から深海魚について学んだ。
- 深海魚が生息する過酷な環境を知り、生物の多様性について考えるきっかけになることを目的とした。



レクチャー 深海魚の視覚・触覚



深海魚についての基礎知識レクチャー



深海魚について、エサの食べ方を中心に生きる工夫を紹介した。口のつくりや、エサの取り方の違いに着目することで深海魚の多様性について学ぶことを目的とした。

はじめに、何も見えない深海の環境を再現し、嗅覚、触覚によりエサを探すことで、深海の生活を疑似体験した。その後、展示コーナーで生物たちにエサやりをし、実際にエサをとらえる様子を観察することで生態への理解が深まった。また、子どもたちだけの参加にしていたが、親の同伴も可能な箇所をつくった。親子で同じ体験をすることで、興味を広げることができた。



後半は、深海魚の解剖をして胃の内容物を調べる剖検を体験した。まずは、剖検で観察するギンザメの分類、特徴を紹介し、ルーペでじっくり観察をした。標本であれば、体の特徴を細かく観察することができる。飼育員と一緒に観察することで、生物を観察する際のポイントを学ぶことができた。オスとメスが用意できたため、その特徴も観察することができた。



解剖用のハサミは飼育員が扱ったが、子どもたちに補助をしてもらいながら一緒に観察をした。胃や、腸、卵巣、精巣などを観察したが、これらを調べることは生物を飼育する上で重要であり、これまで飼育例がないなど未知の生物の飼育研究に有効であることを学んだ。他にも様々な深海魚の標本を観察し、過酷な環境ならではの特徴を知った。また、深海には人間が捨てたごみが多く存在しており、その被害にあった生物を紹介し、自ら行動を起こし、海を守る大切さを知った。

深海魚の中にはスーパーなどで販売されている種もある。今回生物の観察の仕方を知り、特別な場所ではなく普段の生活の中でも生物の多様性について考え、海の学びを得る機会が増えるものと考えた。

【来館者の声】

- 魚のエサの食べ方やプラスチックごみの悪さを知りました。ギンザメの体のつくりなどが知れました。おもしろかったです。
- ごみ拾いをしないと地球があぶないと思いました。
- 海をきれいにして、しんかいぎょをまもりたいとかんじた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■サンゴ礁の魚に餌をやりよう

【開催日時】 2023年12月9日（土） 13:00 ~ 14:00

【開催場所】 アクアマリンふくしま

【参加者数】 10人

【実施内容・目的】

- アクアマリンふくしまの「サンゴ礁の海」で展示している生き物やバックヤードで飼育している暖かい海の生き物を紹介し、その生き物たちの色、形、口の大きさなどを学んだり、どんな餌を食べるのかを飼育員とともに考えたりしながら餌を準備し、餌やりを体験した。
- 暖かい海の生き物をもっと身近に感じ、理解を深めるプログラムとした。



事前説明の様子



餌準備の様子



当館の人気水槽「サンゴ礁の海」コーナーの生物に餌を与えるプログラムを実施した。生物の色、形、口の大きさなどを観察し、「魚」といっても食性が様々あることを学んだ。また、水族館では食性にあわせつつも、藻類を餌とする魚に小松菜を与えるなど、自然界とは異なる入手がしやすいものをエサとして与えていることがある。それぞれの生物の生態を知った上で、飼育をするための工夫や困難なものを発想力で乗り越える方法を学んだ。将来飼育員を目指す参加者もあり、餌やり一つでも様々な工夫があり、労力が必要なことを知り、将来飼育員になる際の心構えを得ることができたようだった。

また、環境を再現した展示を見ることにより、自然を観察する力を養い、海の豊かさや、自然環境の変化について考え、行動する力を育むことができた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

【来館者の声】

- 小さい魚は小松菜を食べるやつもいる。大きい魚は大きい餌を食べる。魚にも好き嫌いがあった事が驚きました。餌を作ってあげるのが、大変だと思いました。落ちた餌はダイバーが掃除するのが大変なことを知りました。
- 餌を準備する時、オキアミなどを混ぜているとき、包丁2つでも、たいへんで最終的に手は動かなかったです。手から汗が出てきて大変でした
- ここで働きたいかなって思いました。餌やりをもっとしたかったです。

■みんなでつくろう！お正月水槽

【開催日時】 2023年12月29日（金） 13:00 ~ 15:30

【開催場所】 アクアマリンふくしま

【参加者数】 6人

【実施内容・目的】

- 例年飼育員が準備している「お正月水槽」を子どもたち主導で準備をしてもらい、水族館での展示をつくるプロセスを学ぶ実践的なプログラム。
- 生物を展示するためには、生物の生態とともに、生息環境を知らなければならぬ。当館の環境展示を観覧したり、自ら図鑑で調べたりすることで、生物や環境への理解を深めることを目的とした。
- 解説板の制作等を通し、海の学びを共有できる人材の育成を図った。



事前説明の様子



事前説明の様子



当館では、毎年干支にちなんだ生物をお正月に展示している。本プログラムでは、その水槽づくりを子どもたちに体験してもらうこととした。これまで当館のプログラムでは、エサやりや掃除などを体験してもらったことはあったが、水槽づくりは実施したことがない。より実践的な飼育体験を実施することで、生物の素晴らしさを伝えるだけでなく、生物の命を預かることの責任と、生物の生息環境についても考えられる人材を育成することを目的とした。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



当館の展示の特徴は、生物の生息環境を再現している点である。事前レクチャーでは、展示生物が来館者から見やすいことは大切であるが、隠れる場所を設けたり、繁殖がしやすい環境を整えたりと、生物が過ごしやすい環境をつくるのが飼育する上では重要であることを解説した。実際にどのような環境に棲んでいるのか、展示を見てもらい、水槽づくりに移った。

飼育員が事前に準備した岩やサンゴ、海藻の中から、生息環境と合致すると思われるものを参加者が自ら選んで水槽にレイアウトした。岩を組み上げて隠れ場所をつくったり、タツノオトシゴのなかまには絡み付ける場所を用意したりするなど、工夫する様子が見られた。



並行して行ったのは解説板づくりである。図鑑で見たり、実際に生物を観察したりして発見した特徴や生態を解説板づくりに生かした。写真も参加者に撮影してもらった。図鑑は専門用語が記載されており、学名を書き写す作業も苦労しているようだったが、自分たちで考え、解説板を完成させていた。

今回飼育員は、アドバイスはするが、参加者が自ら考えることを重視した。図鑑に掲載されている情報は限られている。いかに本物を観察し、生物の生態や生息環境について考えることが重要か、水槽づくりを通して学習した。また、自分たちが準備した水槽を来館者が鑑賞している姿を見て、学びを共有する喜びや難しさも感じる事ができた。

【来館者の声】

- 自然に近く作るのが一番いいと思います。
- 海や魚について理解を深め、海の大切さ等を学べた
- 海は広く、生き物は多様に生きているんだなと感じた。その生きものがある環境を水そうにしてレイアウトをつくるのは良いなと思ったから家でもやってみたい。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。

■化石と生きた化石のびっくり話

【開催日時】2023年9月30日（土）13:00～15:00

【開催場所】アクアマリンふくしま

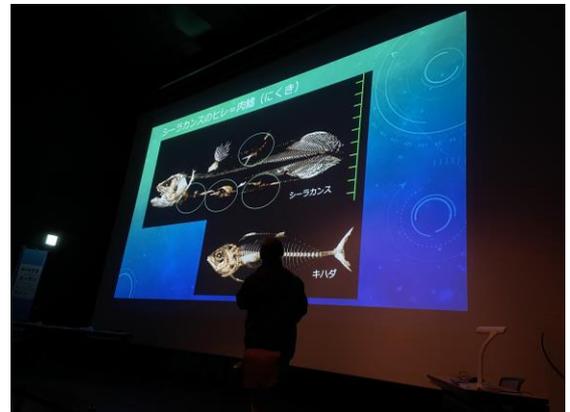
【参加者数】50人

【実施内容・目的】

- 化石と生きた化石について、地元の博物館と連携し、それぞれの視点から解説をする。
- 専門家を招き講演を実施することにより、多様な視点を醸成するとともに、海や生物に関わる仕事の多様性を知ることができる。研究者を志す学生の支援および生涯学習の場とする。



会場マリシアター



講演会の様子



当館の1階「海・生命の進化」では、化石と生きた化石と呼ばれる生物を展示している。ここでは、当館が開館当初より研究しているシーラカンスの映像や標本を見ることができる。一方、当館の立地するいわき市には様々な博物館があるが、連携する機会が少ない。そこで、いわき市石炭・化石館「ほるる」の菜花智副館長をお招きし、それぞれの視点から化石と生きた化石の研究について紹介し、対談を実施することで、研究者の考えや多様な視点の融合による知識と発見の広がり共有した。また、直接参加者と対話する時間も設けた。新種の発見や、世界初の発見を成し遂げたそれぞれの研究者の実体験に基づく知見は、参加者の海の学びへの原動力となったと考える。また、本事業は今後の博物館連携、地域交流を促進する上での布石となった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

【来館者の声】

○化石を知る事で現在の生物の進化につながり、数多くの種類、今現存する生物を大事にしたいと思いました。

○海の近くに住んでいるのに知らないことが多いと感じました。詳しい研究者でもまだわからないことも多くあるのだなと思いました。

○海というより、化石についての話だったと思うのですが、本当に知らないことばかりだったので、またこういう企画があったら参加したいです。

■講演会「深海調査のひみつ大公開！」

【開催日時】2023年11月28日(土) 13:00 ~ 15:30

【開催場所】アクアマリンふくしま マリンシアター

【参加者数】53人

【実施内容・目的】

- 飼育員の活動の内、共同研究にスポットを当て、共同研究機関の方々の講演会を実施することにより、海洋生物への興味と、それらが生息する環境を守る必要性について一般の方に知っていただく機会を提供した。
- 大人や将来海に関わる仕事につきたいと考える学生向けに講演を実施することにより、将来の展望を抱かせることや生涯学習の場とすることを目的とした。



マリンシアター



飼育員“すばる君”による事前説明



当館では、深海生物の展示、調査、研究に力を入れている。それらを可能にするのは、共同研究機関あつてのことである。共同研究という、一般的に表にあまり出ない活動を紹介し、飼育員の多様な活動を知ってもらう機会とした。

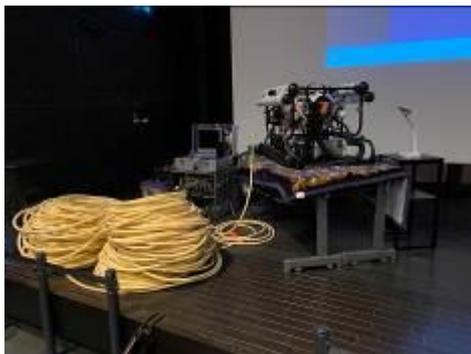
東海大学海洋科学博物館の山田氏からは、深海生物の中では人気のあるラブカの飼育についての取り組みを紹介していただいた。長期飼育が困難なラブカであるが、共にラブカの胎仔の人工保育に取り組み、それまでの記録を大幅に更新している。新潟市水族館マリニピア日本海の新田氏からは、ノドグロの名で有名なアカムツの育成について紹介していただいた。未知の部分が多い深海生物の育成の紹介により海への好奇心を掻き立てる内容となった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



それぞれの研究で活躍したのが、当館で所有している遠隔操作型水中探査機（ROV）である。映像を映すだけであったROVを、研究用に生物を採取することが可能なものに改良した。このことにより広がった展示や、共同研究の取り組みについて当館飼育員から解説した。

飼育困難生物の育成、実現させるための研究者それぞれの努力と多様な視点が伝わる講演となり、参加者からは、積極的に質問が寄せられた。子どもからの質問もあり、将来の展望を感じさせる講演会となった。



事当日は実物のROVを壇上に展示した、講演会後に見てもらったほか、子どもたちには操作体験もしてもらった。参加者の中から次代を担う研究者が育ち、生物とその環境を守る人材となることを願ったのである。

講演参加者には、特典として今回講演会で紹介した生物やROVのカードをプレゼントした。カードは、講演会の内容を思い出したり、今回の内容の共有をしたりするためのツールとなる。講演会では、タイトルとなった生物だけでなく、関連する生物も紹介した。ある生物をきっかけに他の生物や環境、それらの保護について考える機会を提供した。

【来館者の声】

- 海は広いというけれど、本当にまだまだ知らないことがたくさんあると思う。そして水族館は研究をたくさんしているということを一般の人にもっと知ってほしいと思う。
- まだ解明されていない生物の生態などをもっと知りたいと思いました。
- 知らないことがいっぱいある。人間はもう少し考えて生活しないといけない。100m～300mの海のことをもっと知りたい。

【事業全体のまとめ】

飼育道具を媒介として飼育員の仕事を紹介しながら、水族館が日ごろ得ている海の学びを観覧者と共有し、海について学び、海を守ることの大切さを実感できる事業とすることを目的として実施した。海の学びミュージアムサポートを活用することにより、企画展会場だけでなく、広く施設全体を利用して学びの場を提供することができた。以前サポートを受けた際に、年代による理解の差を改善点として挙げたが、今回は、子どもたちが体験できるものあわせて、大人も体験できるハンズオン展示を各所に設けたため、一緒に学ぶことができたとの評価を得ることができた。また、これまでは飼育員の個性を出した展示をしてこなかったが、キャラクターを設けることにより、来館者とのコミュニケーションが生まれ、対話の中から双方に学びが生まれた。この企画展を実施してから飼育員が対応するイベントは増やしていたが、「飼育員と直接話せるイベントが欲しい」との要望が逆に増えた。潜在的な海の学びへの欲求が表面化したと考えられる。

企画展や関連企画を通じ、生物の多様性ととも自然の多様性を知った、人間活動による環境破壊の問題について考えたという意見があった。海に関する理解を深め、行動変化を促す展示とすることができた。

3. 主な連携・協力先について

| 連携・協力先名称 | 連携・協力の内容 |
|--------------------------|-------------------------|
| 1. 東海大学海洋科学博物館 | 共同研究・講演会 |
| 2. 新潟市水族館マリニピア日本海 | 共同研究・講演会 |
| 3. 国立研究開発法人水産研究・教育機構 | 水産資源調査、生物調査についての紹介パネル作成 |
| 4. 福島県水産資源研究所 水産資源研究センター | 水産資源調査、生物調査についての紹介パネル作成 |
| 5. いわき市石炭・化石館 ほるる | 講演会 |

4. 主な広報結果について

| 掲載媒体名 | 見出し、掲載日 |
|-----------|-------------------------|
| 1. 福島テレビ | アクアマリンで飼育員になりきろう（7月10日） |
| 2. 福島民報 | 飼育員の業務や道具紹介（7月16日） |
| 3. いわき民報 | すばる君とルアーづくり挑戦（8月8日） |
| 4. 福島民友 | 深海魚って面白い！（8月26日） |
| 5. NHK 福島 | お正月水槽づくり（12月29日） |

以上